

平成25年度 研修報告会

各コース報告① 「エピソード記録、ふるさと保育カリキュラム」

Aコース 研修報告

南乳児保育所 鎌部 晶子

南乳児保育所の鎌部晶子です。よろしくお願ひします。Aコースでは、大方先生に指導していただき、記録について学んできました。その中で、ある保育所のエピソード記録を2つ紹介します。

1つ目は、ねらいをもって保育できているかという事例です。

(南乳児保育所 2歳児)

タイトル『何が鳴いている?』

与保呂川まで散歩をしていると

「ゲロゲロ。」

カエルの鳴き声が聞こえてきたので

私「しー。何か聞こえるよ。」

H「えっ?何?」

M「ゲロゲロゆうとるなー。」

R「あっ、ほんまや!」

L「こやなー。(カエルのようにジャンプをする。)」

鳴き声は聞こえたようだが、「カエル」

という言葉がなかなか出てこない。

それよりも、カエルの姿が見えないことが気になり

Y「見えんねー。」

M「どこにおるんやろ?」

Y、M、Hたちは、声がする方(家の庭)を見て探す、誰も見つけることができなかった。

私「ねえ、何が鳴いとったん?」

Y「カエルやなー。」

やっと、「カエル」が出てきた。

この記録は、与保呂川まで散歩に行くという目的での園外保育の中の偶発的なできごとです。歩いている時、たまたまカエルが鳴いていて、この日までにカエルを見たり、捕まえようとしていたり、絵本を見ていたから子どもたちは興味を持ったのですが、大方先生からは、この散歩に対する「ねらい」は何なのか?ということが重要だと言われました。ねらいを持って散歩に出かけることで子どもたちへの関わりや声のかけ方がねらいに添ってできたり、そのねらいに子どもたちがどう反応するのかということに注目することができます。散歩だけでなく、日々の保育の中でも、月案には書いていても、ねらいが意識できていない、持っていないことに気付きました。

2つ目は、年齢や発達によって保育士の声のかけ方が違うという事例です。

(西乳児保育所 1, 2歳児)

タイトル『絵本のトンネル』

食事後、パジャマに着替えているときのこと。早くに着替えが終わった子は、絵本や電車など好きなコーナーで遊んでいる。Sが、着脱しているとき Sも大好きな電車コーナーからRとHの声が聞こえた。

H「かして~!!」

R「いや~!!だめよ~!!」

みると、Rのもっているトンネルで2人でやりとりしている。

「だめよ」といわれたHは、声を大きくしてRの持っているトンネルをひっぱった。

H「もう~!!かして!!」

R「もう!やめて!!」

その様子を見ていたS。絵本棚へと走った。そして、絵本を手に取り、広げてレールをまたがせてHの前に立てる。まるで、トンネルのようだ。

H「うわ~!!」

Hは歓声をあげ、口角をあげ、その絵本トンネルの中を電車を走らせる。Sはその場に立ち、Hが電車を走らせる姿をじっと見ている。

そばにいたM保育士がSに声をかける。

M保育士「Sちゃん!素敵なトンネル!ありがとう!」

Sは、M保育士の方を向くと、口角をあげ また絵本棚へ走る。そして、1冊手にとり、Hのそばにまた一つ絵本を広げて立て、トンネルをつくったのだった。

この中でHは2歳3か月、Rは3歳3か月です。1歳児のHは、Rが持っているトンネルがほしいだけ。しかし、2歳児のRは今持っているトンネルは『自分のもの』という思いを持っているため、貸すことができません。保育をする中で、ついRに「貸してあげて。」と言ってしまったり、Hに貸してあげたら「えらいね。」と言ってしまいがちです。これは、貸してあげることだけに目が向いてしまっているため、このような声をかけてしまいます。しかし、◎1歳児はただ『ほしいだけ』でトンネルであれば他のものでもいい。

◎2歳児は『自分のもの』だから代替えがきかない、そのものでなければいけない。という年齢ごとの発達を理解していれば、違う声かけや行動ができます。子どもたちも自分の思いを先生にわかってもらえたと感じることができるのです。

また、2歳10か月のSはRと同じように

自分のものと人のものの区別がついていて、さらにHを助けようとトンネルの代わりになるものを探し、絵本を使って工夫しています。

この記録について大方先生から、その後の3人へのフォローとして、HとRそれぞれのトンネルがほしかった気持ち、Sが絵本でトンネルを作った思いなどを伝えていくことも大事だと話されました。しかし、今回の場合、「でも、絵本だから大切に使わないと破れてしまう」という方向性も伝えていかないといけないことも話されました。この年齢で、貸し借りはまだ難しいのです。おもちゃの数は十分か、一人ひとりが安心して「自分のおもちゃ」として満足してあそべる環境が整えられているか、この子は何を求めているのかを考えて保育することが重要だとも話されました。

さらに、子ども同士の貸し借りでの場面で、保育の中でしがちなことについても話されました。自分が持っていたおもちゃを貸してほしいという子に貸す、これを1, 2歳の子がしていたら私たちは思いやりの心が育っている優しい子どもととらえ、「やさしいね。」「えらいね。」「いい子だね。」などと言っていますが、これは本当に発達に合った姿なのでしょうか?1歳、2歳というのは、まだ「自分のもの」という思いが強く、貸すことは難しい発達段階です。しかし、一度貸してあげた時に「やさしいね。」「えらいね。」と言われ褒められたその子は、また褒めてもらえる、褒めてもらいたいとの思いから貸してしまいます。私たちは年齢以上のものを求めているのではないか?年齢や発達にあったかわりができているのか?改めて考えさせられる機会もいただきました。

7月の合同研修会での講演、9月の連続研修会、12月には大阪に行き各園のエピソード記録の直接指導を大方先生にお世話になりました。

その中で、子どもを意識してみる、それを言語化すること、そして振り返ることの大切さを学びました。まず、◎意識をして子どもを見る。◎子どもが何をしようとしているのか、何を楽しんでいるのかを見る。◎子どものつぶやきや気になることをありのまま書く。◎書いたことを保育士間でカンファレンスする。ということでした。

カンファレンスとは、1つのエピソード記

録について自分の意見を言ったり、いいと思ったことやよくわかったと思ったこと、もう少し知りたいと感じたこと、課題と感じたことを出し合います。記録についてや他の人の意見を否定しないことがルールです。9月の研修では、付箋にこれらのことを書いてしていくKJ法というカンファレンスをしました。

記録は、いいものや素敵なことを書いた方がいいのではありません。書いて終わりでもありません。書くことで保育の課題に気づき、他の保育士とも子どもの姿、成長、発達を共有しなければいけません。この記録が次の保育へつながったり、次年度の保育への参考にもなります。

カンファレンスすることで、他の保育士の思いや子どもの見方を知ることができ、保育士間での共有になり、自分自身の保育の振り返りや見直すきっかけになります。カンファレンスでは、子どもや保育士からどんな言葉が出てきているのか、年齢に合った保育なのか、ねらいはどうか、保育士と子どもの関係はどうかなどを視点に置くことが重要であると思います。その視点は、記録を書くときの視点でもあります。

私たちの保育所でも大方先生の講演を聞いたり、教わりながら記録を書こうとしています。子どもの声を聞くこと、待つこと、子どもをよく見ようと意識化できるようになってきましたが、まだ、明確なねらいを持って保育できていないため、子どもを意識して見るができなかったり、つぶやきをしっかり拾えていなかったり、どう書いたらいいかなど、迷いながらです。カンファレンスも保育所内で何度かしました。最初はという風にしたらいいのかわからなくて、なかなか意見が出てこない時もありましたが少しずつ出てくるようになってきています。

大方先生に指導してもらったことで、たくさんのことを学ばさせていただき、ふたつの大きな課題も見えてきました。

一つ目は、記録。見ているはずなのに書けていないこと、ねらいを持って保育ができていないので書く視点が定まっていないことです。ねらいを持って保育をするためには、もちろん年齢に合った発達の理解をしておかないといけません。

二つ目は、カンファレンスの課題。園内でのカンファレンスで大方先生のように、保育のねらい、子どもの発達・育ち・課題を読み取ることができていないということです。

これから、改めて基本にかえり、子どもの発達について学び直し、年齢にあったねらいを持ち保育すること、園内でのカンファレンスを通じて保育の課題に気づけるように研修に取り組んでいきたいと思っています。

## Aコース 研修報告

なかすじ保育園 桜井 あゆみ

なかすじ保育園の報告を行います 桜井あゆみです。どうぞよろしくお願ひいたします。スクリーンをご覧ください。

平成25年9月19日(木)2歳児  
【タイトル (月見だんご作り)】  
お月見だんご作りの時のことである  
私「こうやって手でコロコロまるめるんやで」

と、子どもたちに伝え、「コロコロ」と声に出しながら白玉粉を練ったものを丸めていた。

MとHも「コロコロコロ」と言いながら丸めてはいるもののだんだん面白くなり、手で押ししたり平らにしたり伸ばしたりし始めた。

時間がたち、形も丸くなってきた頃にMが「卵の赤ちゃんみたい」と言った。私が「本当や。卵みたいやなあ」と言うとHは「赤ちゃんおるんやで」と笑った。初めは丸めるよりも、力を入れて形を変化させていたMとHも「卵」や「赤ちゃん」を連想してからは、手で優しく卵をイメージして丸めているように見えた。二人の表情もとても穏やかであった。

子どもの育ちや気づきとしては、

日ごろから、粘土あそびや泥だんご作りなどを取り組んでいることもあり、4月から比べれば、手で丸くしたり指先で自分の思いのままに、変形させるということができるようになり、子どもたちの成長を感じた。

見たものや感じたものをイメージする力を身につけていきたい。

以上が 保育の記録です。

これを大方先生に見ていただき コメントをしていただきました。

「コロコロ丸めるんやで」の言葉に対しては、

◎丸めるというだけでは、2歳児にはわかりにくい。「コロコロ」と言ったことでわかりやすくなった。擬音の方がわかりやすく、模倣しやすいということでした。

「卵の赤ちゃん」の言葉に対しては、

◎子どもたちは 卵＝小さな赤ちゃんと連想した  
ということでした。

先生を通して会話ができていた点については、

◎つじつまが合うようになりイメージが膨らむ。

◎やりとりする力(会話)が 育ってきている。

ということでした。

担任にたずねたところ会話の中で、保育士が「赤ちゃんおるんやなあ」など 子どもの言葉を繰り返してあげていたようでしたが、保育士の声かけを正確に書くことが大切だと言われました。

子どもの言葉を保育士が反復することは、

◎子どもが言葉を獲得していく、

◎イメージする力がつく、

◎会話する力につながっていく

そうです。

また、

◎手の操作性が育っていないと丸めることは難しい。

◎食べ物なので感触を楽しむすぎではいけない。その為 もっと楽しみ経験するためには、粘土と同じことをすれば感触が味わえるのではないか。他の素材で行くと子どもの反応はどうなるのか？

◎全員が丸めることが出来たのか？

など、考察するとよいなど、次への課題もいただきました。

最後に、総括として・・・

◎月見だんご作りでは、団子を作るだけでなく、一緒に体験することで、言葉や表現も育つことになる。

◎言葉は、身近な体験からやりとりをしたり、気持ちを言葉に変えていくことが大切。

◎2歳児の世界は 概念が育っていない中でのイメージや体験を表に出していく、アニミズム(擬人化)の面白さである。

◎物や人などが関係のない中での言葉のやり取りがイメージを表現して見立て遊びをするようになり、さらにごっこ遊びへと発展していく。

◎見立て遊びからごっこ遊びに発展させるためには、身近な体験を通して、言葉のやり取りを楽しみ、社会性を育てることが大切になってくる。

といった助言を頂きました。

以上で報告を終わります。

ありがとうございました。



大方教授指導によるグループワーク

## 各コース報告② 「プロジェクト型保育」



Bコース 研修報告  
東山保育園 井上絵里、塩見恵理

東山保育園、井上絵里です。塩見恵理です。これよりプロジェクト型保育の報告をさせていただきます。

春から園全体で試行錯誤しながら取り組んできたプロジェクト型保育。

初めのころはドキュメンテーション作成において、子どもたちが遊んでいる写真を掲示し、保育の様子を伝えているだけでした。

同じBコースの園の方のドキュメンテーションを見せていただいたり、北野先生の助言をいただき、ドキュメンテーションのあり方が少しずつ理解できるようになってきました。自分の子どもが写真に写っていることだけを喜び、子どもが何を楽しみ感じているかに、関心がみられなかった保護者の方に伝えることを重点と考え、園全体で方法を統一し工夫して作成しました。

その方法は、各クラスの色帽子的色で枠組みを作る。ピンクは会話・黄色は行動・青は考察です。

そうすることにより、この遊びにどんな学びがあり、どんな発達につながっているか、よくわかると保護者の方から感想をいただくようになりました。

ここで3・4歳児のドキュメンテーションを紹介します。

2月の晴れた暖かい日、お寺の境内へ遊びに行った日のこと、池の中にいる魚やザリガニを見たり、水仙の芽を発見したり、橋を渡ったり、雪に触れたことが楽しくて「先生、探検ごっこ楽しかった。また探検ごっこ行こな」

という子どもたちの言葉から「探検ごっこ」というトピックスを選びました。

1月からスタートした3・4歳児のたてわり保育。戸惑うことはなかったものの、関

わり方がぎこちなかったり、よこわりで固まって遊ぶ姿が多く見られましたが、場所を共有したり、発表会の劇遊びを通して憧れたり、刺激を受けたり、真似する中で連帯感が生まれてきた子どもたち。お寺の境内で展開した遊びが様々な形となって広がっていったのを「想像力」「比べる調べる」「好奇心・探究心」「発見」

4つの項目に分けています。

その中の1つのエピソードです。

本堂の建物の床が高く、その下がよく覗けました。その形や雰囲気からトロを連想し、共感想像した子どもたち。その日はそこまでで終了しましたが、次の日、トロのことが気になり、本堂を眺める子どもの姿を見て本堂へ行ってみました。前日置いていたご飯がなくなっていることに喜んでいたり子どもたちは、誰もいなくなった時に、こっそりとご飯を食べるトロをイメージし、トロに会えるかもしれない、トロに会いたいな、という希望を胸に今も毎日のように本堂へ通っています。

「トロがおりそう」という一人の子どもの言葉が発信となり、興味関心のある子どもが集まり、会話が広がり、発想が生まれ、推測する力・想像力が豊かになっていくことを感じています。

これは、4・5歳児・秋のあそびについて作ったドキュメンテーションです。

きっかけは3歳児と一緒に公園へ散歩に出かけたことから始まりました。

「今日はこうのす台の公園に行きます。どんぐりがいっぱいあるんやってー」と話をすると

「やったー」・「せんせい、どんぐりやまやなあ」

と子どもたちの口から自然に「どんぐりやま」という言葉が出てきました。

このトピックスにおいて、「どんぐりやま」に散歩に出かけたことがきっかけとなり、「ごっこあそび」「どんぐりを使って遊び」「種類や大きさについて調べる」「製作で表現する」という風に、いろんな方向へ展開していったことがわかり、その様子をこのようなドキュメンテーションにしました。

赤や黄色に染まっている自然の美しさや変化に気付き、春には花が咲き、夏には葉っぱになり、秋には赤や黄色に染ま



り、冬には葉がなくなる。そしてまたつぼみができるというサイクル、季節の変化にも気付いていました。

どんぐりの大きさや形、模様など実際に絵にあててみたりしながら比べている子どもの姿もありました。自分の気づいたことだけでなく、友だちとの関わりややりとりの中で、友だちの気づいたことも受け入れながら、より細かい所にまで気づき、より深い学びへと発展していきました。

このように子どもたちと一緒に保育士自身も気づき、学んでいくことができた1年でした。今まで当たり前前に保育をしていたこと、感じていたことを可視化することにより、子どもひとりひとりの成長や学びを、保育士自身が具体的に感じとることで、保護者にも子どもの成長をわかりやすく伝えることができ、保護者の意識の変化を感じるようになってきています。子どもたち自身も与えられたものばかりでなく、自分で調べたり比べたり、探索する力がついてきたように思います。

昨日の研修では、北野先生よりドキュメンテーションの書き方について次のよう

なご指導をいただきました。◎ドキュメンテーションは保護者の方に子どもたちの学びや育ちを伝えるという手段である。

◎保育の専門家として、「この経験がこの育ちにつながった。」と自信を持ち、はっきりとした形の伝え方をしていく。この点をこれから改善していきたいと思

います。この数か月プロジェクト型保育とはどうい

うものであるのか、私たちなりに勉強してきました。まだまだ手探り状態で、学んでいくことも多くあると感じています。子どもが主体となる活動ができてい

のか、子どもが今興味関心があること・育とうとしていることが何であるのかを考え、それに対しての環境の設定を見直し、今後の保育にいかしていきたいと思



Bコース 研修報告  
ルンビニ保育園 伊田真帆

本日は、プロジェクト保育で学んだことを発表させていただきます、ルンビニ保育園2歳児担任伊田真帆です。

土と戯れることが大好きな子ども達。最初に、ドキュメンテーション作成1枚目は、ジャガイモ掘りをした後のポテトチップスづくりを題材にしました。完成作品を持ち、北野先生の、Bコースに参加し、◎文字の色を子どもの言葉(青)・発達(赤)・活動内容(黒)に分ける。

◎保護者に保育士の意図がより伝わりやすいようにねらいを書く。

◎子どものつぶやきを記録し、ふきだしとして記載する。

などのご指導をいただくと同時に、◎模造紙で作成していた作品をクラスカラーの画用紙にすることにより、ひと目でのクラスのものかわかるように工夫する。

◎文字を保育士の個性を生かした手書きにすることで、思いや感情をより伝わりやすくする。

などを改善しました。

2枚目の作成は、トピックスを「さつまいも」に決定し、さつまいもの苗植えから収穫までをドキュメンテーションとして作成しました。

その中で、試し掘りをしたある日の写真です。大きなさつまいもが掘れて嬉しくて嬉しくて手放せない3歳になったばかりの男の子がいました。この子はさつまいもを砂場に植えスコップでまた掘りまた掘りという姿を何度も何度も黙々とくり返していました。この予想もなかった姿に私たちはとても驚くと同時に、あまりにかわかったので、写真としておさめました。ドキュメンテーションとして作成した後、いろいろな人からこの写真の姿について尋ねられました。その場にいた職員だけの話題で終わっていたかもしれない行動が、一コマの写真により、その時の情景、子どもの姿が想像でき、職員や保護者で写真を囲んでいろいろな話をすることができました。そして、何よりも子どもの好奇心や意欲を大

切にし、自分でやってみたい活動を経験させてあげられる保育士自身のゆとりの必要性を感じました。

その写真の出会いから小さいクラスだからといって保育士がすべて事前に用意しておくのではなく、子ども達と一緒に考え保育をすすめていくことが、大切なことだと思直させてくれたきっかけとなりました。

さつまいものつとと戯れる子ども達。この笑顔届けたいと写真におさめている時、同じ状況を様々なアングルでとる。伝えたいポイントを決めアップでおさめる。作成時にそのまま写真をはるのではなく、切り取ってより強調できるように工夫してみました。

「くにとったら食べられるんやで〜」と何気なく言った一言に「たべたい!」と話が広がり、調理室へ持って行き調理師さんから「まわりのうすいかわをむいてね」と教えてもらいました。その活動を通して、調理師との関わりも深まり、食べる意欲へもつながっていきました。

さつまいも掘りの時、「さつまいもを掘ったぞ〜」と大歓声を上げているかたわらで違う歓声が交差し、大きなあおむしを見つめる子ども達がありました。毎年色々なあおむしが、さつまいも畑に姿を見せます。いつものように今年も育てることにしました。ここで新たなトピックス「あおむし」の登場です。作品展でもあおむしづくり、さなぎづくり、ちょうちょづくり、あおむしが大好きないちごづくりをしました。さなぎに

なっていく様子を観察し、本物に日々ふれることで、「先生、いつちょうちょになるかな〜?」と期待に胸をふくらませ、みんなまで心待ちにしています。「お腹いっぱいあおむしにいちごを食べさせてあげたい」との思いから、あおむしの大好きないちごの苗も植えることになり、ここでまた新たなトピックス「いちご」の登場です。春になると、さなぎがちょうちょになり、いちご畑にあそびに来てほしい、ワクワク感・ドキドキ感・どうなるのかな?と期待と驚き・喜びの気持ちを抱きながら次年度につながっていくことにしました。

今回のプロジェクトで学んだことはドキュメンテーションを通して毎日の保育内容を、保護者にわかりやすく、教育的な観点も添えて伝えていくことの大切さ、子ども主体の活動で、子どもの発見や気づきを保育士が受け止め、その気づきが保育内容にいかせ、柔軟に対応できる保育現場が必要です。その場だけで終わってしまう保育内容ではなく「次につながり発展する保育」の大切さ、日々の保育のあり方を見つめ直し、子どもたちのより豊かな発達を促し、寄り添い見守る中で、学び・発見・課題等が常に話し合える職員間でありたいと感じました。保護者の方から、持って帰ったおもいを大事に抱えて寝ましたというような、微笑ましいエピソードも頂き、保護者との会話も写真やつぶやきがあることで具体的なエピソードを交え保育の振り返り、発達の確認ができるようになりました。

今年の春に大きなちょうちょになって飛び立ってくれること、そのちょうちょがいちご畑に遊びにきてくれることを、子ども達と心待ちにし、報告を終わらせて頂きます。ありがとうございました。



Bコース 研修報告

中保育所 藤村 万紀

Bコース研修発表をさせていただきます  
中保育所 藤村万紀です。よろしくお願いいたします。

中保育所は、職員全体での学習会、書籍の購読などを行いながら、手探りでプロジェクト型保育を進めてきました。まだまだ試行錯誤ではありますが、少しずつこの保育の楽しさを感じ、また子どもの姿・成長を通し、学びを得る1年となりました。

事例のひとつとして、4歳児の姿を紹介します。

さつまいも苗植え直前の6月。さつまいもを育てることへの喜びを培うという保育士主導のねらいのもと、パン作りを楽しんだ子ども達。

自分達でパンが作れたという驚き・喜び、そしてその美味しさ、調理による材料・食材の変化(特に発酵)に『なぜ?』『どうして?』の気付きも多く、パン作りにすっかりはまった子ども達。早速栽培中のかぼちゃを使っての第2回目のパン作りを計画しました。

しかし、残念ながら栽培に失敗、そのことを知った保護者から『パン作りに使ってほしい』とかぼちゃをいただき、また別の保護者からは『教材に使ってください』と、2種類のかぼちゃをいただきました。子ども達がふれ・感じ・試し・考えることの大切さを理解し、賛同して下さることを嬉しく思いました。

そんな中少しずつブームとなってきたのが【からすのぱんやさん】の絵本

パン作りを経験した自分達と、絵本の中のからすのぱんやさんの姿を重ね、役になりきりごっこ遊びを楽しむ子、小道具作りを楽しむ子の姿が見られるようになりました。次回のパン作りに向け『からすのぱんやさんみたいな帽子作りたい』と提案した子にクラス皆が賛同。期待感と見通しをもち行動する姿はとてもイキイキしていました。

そして次第に『お楽しみ会で、からすのぱんやさんしたい』と声があがり始めました。

子ども達が主体的に活動をすすめるには、どのような環境がその行動を促進するのか?を考え、秋の遠足は、絵本そっくりの石窯がある、ふるるファームへ出かけました。

クラスみんなで、実際に本物にふれ石釜体験をすることは、共通の基礎の基盤となり、話への興味・関心もより深まり、好奇心・創造力を高めたように感じます。翌

日『先生石釜作るで、段ボールと茶色い絵の具がいる』と早速石窯作りをはじめました。

その後繰り返し楽しんだパン作りは、今日までで合計7回。

その経過は、ドキュメンテーションとして、時系列で保育室にはり足していきました。

子ども達の学びの課程と成果を保護者に可視化することは、子ども達にも活動を振り返るよい機会となり、何度もドキュメンテーションを眺めてはパン作りの再現遊びを楽しんだり、次回にむけ作り方を確認する姿が見られました。

更には『パン屋さん行ったら色々なパンあったで、作りたい』と色々な味のパン作りや、『もっといっぱいおかわりしたい』と今までの倍の量のパン作りにチャレンジ、いつしか子ども主導のパン作りとなっていました。

いつもの倍のパン作りでは、不安を感じつつも、あえて調理器具はいつもと同じ数しか準備をしませんでした。子どもがより考え深め・工夫し、活動をしてくれるのでは?と意図したものです。

すると子ども達は、ひとテーブルで、さつまいも皮むき・包丁切り・パン生地こねを見事に同時進行。

さつまいもを洗うザル・ボールセットが足りなくなると、周りを見回し、セットで使用している子に『どっちか貸して』と声をかけ、手を上手に持ってボールで水切り。

まな板1つを2人で上手に分け包丁切り。いつもの倍の忙しさを予測し、それに見合った役割分担をし、絶妙のタイミングで交代。

『さつまいも5本切ったら、こねると交代するんや』と、自分達の考えたアイデアを嬉しそうに話す子ども達。

一人ひとりが、みんなでき取り組んでいることや協力する必要があるということを確認し、活動をすすめていました。

より細かな観察もできるようになり、こね方、力加減、気温によって異なるパン生地や、発酵スピードの違いにも気付き、体験している内容の質は驚くほど高くなっていきました。

そんな子ども達がお楽しみ会に向け、主体的かつ意欲的に活動を進めた様子を紹介します。

劇のおおまかな内容は絵本に添っていましたが、とことん脚色することを楽しむ子ども達は『本物のパン作りを、お家の人に見せたい』と劇中にパン作りを盛り込むことに。正直、この展開は予想をしておらず、一瞬戸惑いを感じましたが、子ども達の力を信じらせてみることにしました。



パン作りには、一日を要することを知っている子ども達は、劇として発表するにはどうすればよいかを考え、工程を【パン生地をこねる・伸ばす・さつまいもをのせる・丸めて切る】の4工程に分け、その中から自分が一番見て欲しい工程を選び、順番に披露することに決めました。

また、子ども達がパン作りで培った気付きは、セリフとしてではなく保育者との自由なやりとりとして、また『歌も唄いたい』という子どもの意見から、歌詞なしの曲を準備。その曲に子ども達が歌詞をつけ、歌として披露しました。

内容に合わせ、クラス全体そして時には小グループでアイデアを出し合い、友達を認め合い、協力をし、どんどん展開を深めていく子ども達。

自分達が長い時間をかけ活動し、経験を重ねてきた流れと自然につながりがあることを取り入れることは、これほど子ども達のモチベーションを高め、やる気のでるものと驚きの連続でした。

保育者は子どもの育ちや行動背景を理解した上で、自主的に発言したことに共感し、寄り添い、時間や場を保障し、温かく見守ることだけでよいのでしょうか。またこれらの思いを共有できる担任間のチームワークの良さの大切さも感じました。

そして当日!子ども達からは、この1年、時間をかけ学んだことや育てた力を見てもらいたい!聞いてもらいたい!という強い意気込みさえ感じました。

お楽しみ会後のアンケートからも、「自分達で考えたことがたくさん取り入れてありよかった」「劇の題材も何回もやったクッキングベースになっていて、経験から得た知識が発揮できてよかった」

「自分達が頑張ってきたパン作りのストーリーを今度は演技でもしっかり発揮できていましたね」と、この保育の良さを共感してもらえたことを嬉しく思います。

また「衣装や道具など、家庭でも協力できることがあれば協力して参加したい」ともあり、保護者にもプロジェクト型保育への参加を呼びかけるとい、今後の課題も頂いたように思います。

今でもこのプロジェクトは続いており、『年長児にパンを作ってプレゼントしたい』と14日にもパン作りを計画。子ども達は次年度も、このプロジェクトを自然な流れで継

続し、更に発展させていってくれるのでは？と期待しています。

食育活動として取り組んだパン作りからスタートしたこのプロジェクトでしたが、振り返れば、子ども達の中で、全ての領域の育ちが見られ、改めて、どの活動においても全ての領域の視点で子どもをとらえ、計画を立てることの大切さを感じました。

最後に、保育所全体として出た課題は、子どもへの関わり方や環境支援・主体性の引き出し方・各領域バランスのとれた保育内容・保護者理解の難しさ・未熟さなどでした。

今後は、クラスの枠を越えお互いの保育や記録を見合うなど、自分の保育を客観視し、共に学び合い・育ち合える園内研修の充実、また保護者と共に子育てを楽しめるよう子どもの発達の育ちや行事のあり方の発信方法の工夫など、に取り組んでいきたいと思ひます。

この一年のひとりひとりの気付き・課題を、職員全体で共有し、今後もプロジェクト型保育を、子ども達と共に探求していきたいと思ひます。

以上で発表を終わります。  
ありがとうございました。



北野准教授指導によるワークショップ

### 各コース報告③ 「保小連携・記録」



#### Cコース 研修報告

東保育所 長谷川 士

報告をさせていただきます東保育所長谷川 士です。よろしくお願ひします。

東保育所は木下教授を講師に迎え、1年間研修に励んできました。わかっていなかったことや、できていなかったことが本当にたくさんあり、それを一つ一つ木下教授にご指導頂き、さらに方向性を示して頂いた1年だったと思ひます。

具体的に話すためにまずは、6月21日の保小連携活動の公開保育をさせてもらったことについて少し話をしたいと思ひます。

その日の活動は船づくりがテーマでした。小学校1年生のペアの子と隣同士で船を作っていたのですが、どうしてもねらいの、関わり合うと言う部分が達成できず、個々の活動になりがちでした。また、公開保育で見られることを意識しすぎて保育士が準備をし過ぎていたり、出来映えにこだわってしまっていたりと当初のねらいとしていた学びからかけ離れた活動になってしまっていました。また、保育士が援助しすぎ子どもが自己発揮できない姿もありました。

そうした活動を木下教授に見て頂いた中で、いくつかご指導を受けました。

- ◎どんな子どもに育てていきたいのか。
- ◎形や結果ではなく、ねらいに沿った学びや気づきがあったかどうか。
- ◎日々の保育の中で子どもが主体的で遊び込んでいるか。

これらのことは、保育をしていく上では本当に当たり前のようなことでした。けれど、改めてご指導頂き、この日から東保育所は職員全体で話し合い、日々の保育を見直すようになりました。

◎どんな子に育てたいのか。  
については…

- ・一つ一つの行動を自分で考え判断し、自信を持って自己発揮できる子
  - ・自分の良さに気づき、友達のことも認め合える関係づくりができる子
- こんな子達に育てほしいと話しました。

◎形や結果ではなく、ねらいに沿った学びや気づきがあったかどうか。

と言う問いには…

そもそも活動ごとにこんなところに気付いてほしい、こんな学びをしてほしいと言う思いに欠けていたことを反省しました。たとえ、見栄えがどんなに悪くても、結果が失敗に終わったとしても、ねらいとしてあげていた内容が達成されていたなら、学びや気づきがあったなら、成功したなと思える保育士にならなければいけないのだと気づきました。

◎日々の保育の中で子どもが主体的で遊び込んでいるか。

この問いに対しては…

保育士が遊びを与えるのではなく、子どもが考え、工夫し、生み出せるような保

育に変えていかなければいけないのではと、話し合いました。

保育士の画一的な指導から、子ども主体へと意識を変えていく中で、保育所の環境を見直したり、言葉がけや対応について考えたりと、子どものために職員が真剣に考え、話し合い、行動するようになってきたことが、東保育所の大きな成果だと思えます。

今話したような内容を心がけて、1年間保育をしてきた中で、少しですが、変わってきたなと感じた出来事がありましたので、紹介させていただきます。

今年の年長組は、お泊り保育のカレー作りに向けて、毎日朝の自由遊びの時間に給食の野菜切りの手伝いをしたい子が中心になり経験を重ねてきました。お泊り保育が終わってからも、その活動は続き、やりたい子が自主的に参加していくことでどんどん上達し、その日のサラダや煮物に合わせて切り方や大きさまで自分たちで考えられるようになりました。今まで興味がなかった子も、そんな友達の様子を見て興味を示し挑戦するようになり、わからないことも保育士が手伝う前に、友達が「こうしたらいいんやで」と、さりげなく教えるような姿も増えてきました。

もう一つ、印象的だったのが発表会の衣装作りでした。10月に遊びでハロウィンパーティーをした時に衣装作りをした経験があったからか、役が決まるや否や、保育士に言われるでもなく衣装を作り出す子が何人もいたので、本当にビックリしました。

それだけでなく、家で衣装の設計図(デザイン)を書いてくる子までいました。周りが作り出すと、苦手な子まで見よう見まねで作ったり、手伝ってもらったりしながら作ることができました。

こうした姿は去年にはなかった事なので東保育所としては 子ども主体の保育へ 少しずつ変わってきた証なのかなと、嬉しく思っています。

木下教授から学ばせて頂いたことに話は戻りますが、さきほどの3つとは別に、とても重要なことを教えて頂きました。それは、子どもへの関わり方です。教えて頂いて大きく変わったのは、保育士の待つ姿勢です。保育士がアドバイスや答えを出すのは簡単ですが、子ども同士で話し合ったり、考えたりする機会を奪わないよう心がけるようになりました。

また、大人は固定概念があるのでこうでないといけないという固い考えをしがちでしたが、子どもの発想を大切にしよう

に変わってきました。

保育士の対応が変わると自然と子どもにも少しずつ変化がでてきました。友達同士で助け合ったり、認め合う姿が多く見られるようになったことです。自分たちで遊びを考え、ケンカを解決し、行事を達成し、保育士の力を借りずさまざまなことを乗り越えてきたことで自信が付き、そして自信がついたことで友達の事を認められるようになっていったのだと感じています。

少しずつですが、成果が見えてきた反面、これからの課題も見えてきました。

一つ目は所内研修がなかなか進まず全職員での意識統一がままならないことです。

二つ目はねらいに基づいた環境設定がうまくできていないことです。

今後はただ、楽しいだけの遊びの提供にならないよう、発達の筋道をしっかりととらえ、そこに気付きや学びが生まれるような環境設定ができるように職員で話し合い、意識統一をしていきたいと思っています。

木下教授のもと、基本の保育を1から見直す事のできた貴重な1年だったので、今回の学びをしっかりといかし、1歩ずつステップアップしていけるよう、東保育所全職員で努力していきたいと思えます。



木下教授指導によるワークショップ



2月10日公開保育（岡田保育園）  
研修報告

「チャレンジ！段ボールバス作り」

#### 木下教授のアドバイス

つい先日、2月10日の岡田保育園の公開保育で木下教授がどの園にとってもためになる助言をしてくださったのでここで少し紹介したいと思います。

自分の園や子どもたちを想像して聞いてほしいのですが、「集める保育と集まる保育」というキーワードを木下教授は言われました。「今から〇〇します。〇〇するので集まりましょう。」という保育か、「先生なにしとん！？ぼくもしたい！」という保育か…自分の園はどちらでしょうか。私は、自分の保育を思い出してドキッとしました。

子どもたちがすすんでしたいと思えるような活動が本当にできているかということをもう一度見直して、「言われたことを言われた通りにする子」ではなく「主体的に生き生き活動する子」が育つように見直していきましょうということでした。

もうひとつ印象的だったのが、「子どもとつくる保育」という言葉でした。一緒に作り出すことが主体性を伸ばし、子どものやる気のスイッチを引き出す活動へとつながっていくとおっしゃっていました。

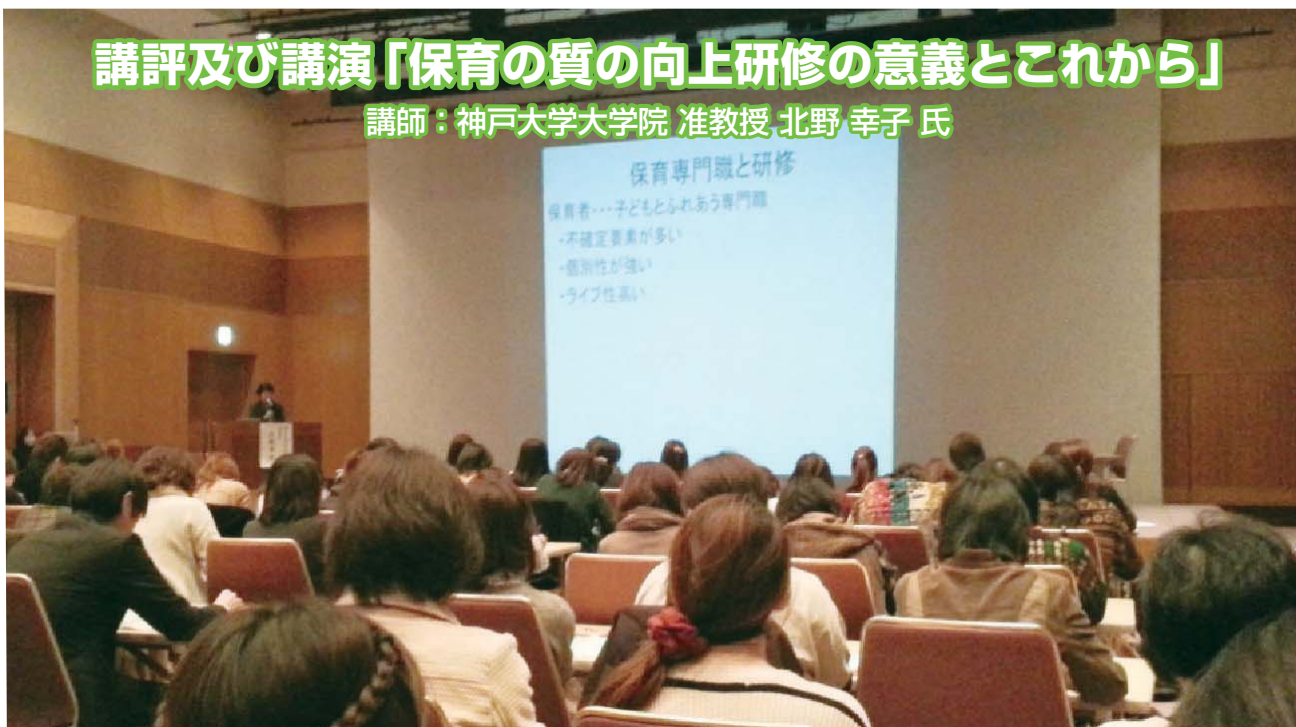
最後に学びや気づきのある遊びや魅力ある活動をつくりだすのに最も重要なのが環境設定だと、木下教授はハッキリとされていました。環境が活動をカバーし、いい保育へ導いてくれる、しかし、裏を返せば環境こそが命であると言われていたように私には聞こえました。

とても勉強になったアドバイスだったので、参考にして頂けたらと思います。



## 講評及び講演「保育の質の向上研修の意義とこれから」

講師：神戸大学大学院 准教授 北野 幸子 氏



この一年舞鶴の保育に関わらせてもらい、今後の舞鶴の保育を楽しみに思う。

公開保育をすることはすばらしい。回を重ねる度それぞれの園が発展しており、先生の表情がかわり、語彙数が豊富になり、ドキュメンテーションの質もすばらしくあがり、力をつけてくださったことを嬉しく思う。

今後も地域の保育園同士が見せ合い、これからの保育を一緒に考え向上していき、園や施設を越えて連携し、舞鶴市を発展させてほしい。

しっかりと連携されている市は、子どもの心の問題や不登校、犯罪が減少し、学力の向上につながっていく。

人と接する専門職のすばらしい実践者は実践をやりっぱなしにしない。どうしてうまくいったのか、なぜうまくいかなかったのか…常にそう考える。

子どもとふれ合う専門職も、常に振り返りながら保育することが大切だ。あの時こうしたらどうだったか？あの声かけでよかったか？あの援助でよかったか？発達のとらえはあったのか？実践を記録にすることで自分の保育が見えてくる。実践を記録に残し、振り返り、積み上げていくことで、保育の引き出しの中身が増え、そのつど判断して引き出すことができ、自分の成長へつながる。

活字にすることはとても大切。考えないと書けない。書くということが力量になる。

ドキュメンテーションを通じて家庭や社会に保育をアピールしていくことが重要。‘ただ子守をしているのではない。素人には決してできない大変な仕事をしている。

こんなに保育園で育つ。’ということを知ってほしい。結果ではなく、それまでのプロセス、活動の中でどのような力が育ったのかということが大切’ということを知ってほしい。日本の保育のすばらしさを知らせよう。そのためにも記録は大事！

保育は小学校以降の教育とは違う。保育はみんな一緒に同じ内容を同時にしない。幼児の学びの特徴は無自覚な学びである。自己中心性が高いこの時期に、やりたいことをやったほうがよい。与えられたものより自分で学びたいと思ったことの方がその子を大きく成長させる。

そのために保育士は、‘こういうふうに育てたい’という子ども像をしっかりと持ち、‘こういうふうになっていく’と見通しを持って保育することが重要だ。発達や育ちを理解した上で、この子の興味は今何に向かっているのか、この子に合った教材は何か、ということを考え、子どもとの相互作用で保育を進めていくことが求められる。

プロジェクト型保育とは、自由な遊びと、一斉保育をまぜたような保育。または第3の保育である。

教科書主義とも、遊び中心の保育とも組み合わせられる。

幼児の保育は指導案通りにならない。それがおもしろい！子どもの興味に合わせて違う活動になってもいい。内容や予定を変えて、シナリオ通りいなくていい。子どもの興味関心を取り入れ変えていく。

子どもの思いをひろいあげ、遊びを言語化し、言葉をかけることで、遊びが広がり

深まっていく。子どもは保育を一緒につくっていく参画者でもある。

カリキュラムは子どもの興味や好奇心を大いに反映させてつくる。子どもは、自分のしたいことは工夫して思いを出して広げていく。図鑑や調べるコーナーを充実させることで、何かしたいと思った時、自分で調べて観察していけるような環境を作っておくことで探求が深まる。ちょっとした環境の工夫が子どもの育ちにつながっていく。人と環境の相互作用で保育を深めていく。

幼い頃、自己を発揮し、わがままを出した子は他人にも自己主張がある…ということを知る。その経験が、他者の気持ちに気づくということにつながっていく。一斉保育のなかでは育たない力もある。非形式的な保育の中に、生きていく上での大切な学びがある。

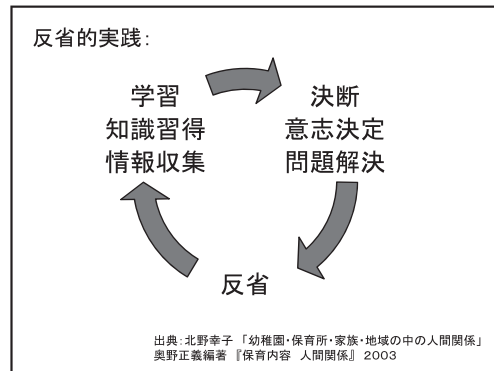
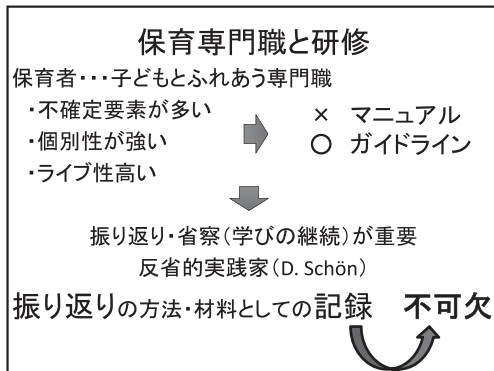
日々の生活の中で、子どもたちが自分で考えること、自分で決めること、自分で行動することが、どれだけあるか考えてほしい。考えることを必要とする保育が大切。指示・命令より、意識して誘い語・疑問語・子どもが考えられるような言葉がけをしていく。子どもたちが意見を言い合う…考え合う…集える保育を目指してほしい。

保育を通して自分で自分を育てる力、生きていく力を子どもにつけていく。幼い頃、知りたいことがわかった、やりたいことができた…ということが自己肯定感につながり、自分で調べたり工夫したりする力、学ぶ力、自立して自己教育する力になっていく。乳幼児期に五感をたくさん使った子どもたちを育ててほしい。



講演資料 (パワーポイント)

保育の質の向上をめざして～研修の意義とこらからの課題～



**記録をつける意味**

子どもの理解・・・発達の過程、興味・関心

「ねらい」「願い」・・・発達の見通し、育みたい力

実践計画・・・記録しながら考える

実践の振り返り・・・記録しながら評価する

自分の宿題・・・成長のために

伝えるために・・・子どもたちとの共有  
保護者との共有

**家庭との連携もチームで**

保護者と直接接する個々の保育者を支えよう

背景としてのチームとしての職場内の団結

園長と主任のリーダーシップの元の共同意識を  
専門職としての自負

ドキュメンテーション等伝える・残す記録の工夫  
共に子どもを育てるために

**専門職と記録**

専門職には必ず記録が存在します

PDCA サイクル

省察と実践力の向上

よい実践者となるために

**保育者の専門性の向上**

保育の振り返りから(≒PDCA)  
保育実践の構造化を図る

130年前から

ドキュメンテーションで伝えたい保育の醍醐味

幼児の学びの特徴 「無自覚の学び」

保育者の教育の特徴 「自覚的な援助」

無自覚的な遊び(学び)の援助はいかにして可能か  
子どもの発達への理解

幼児の遊び(無自覚の学び)の中の学びを保育者が  
自覚すること

ドキュメンテーションで伝えたいこと

- (1) 環境構成の工夫(コーナー、遊具)
- (2) プロジェクト型保育の工夫(教育的意図)
- (3) 好きな遊びの援助(言語化、気付き、共同)
- (4) 子どもの育ち(情意、知識、技術、応用力)
- (5) 子どもの育ちの見通し



読み書き算教育 ←——→ 遊び中心の活動  
一斉設定保育

どちらでもない第三の方法

### プロジェクト・アプローチ

教科主義とも、遊び中心の教育とも、  
組み合わせ可能

### プロジェクト・アプローチとは

プロジェクト:あるトピックについて詳細に調べる

トピック:子どもの生活と関連深いもの  
自然とのかかわりの深いもの

プロジェクト・アプローチ(方法)  
トピックについて調べる課程で、

- 一人一人の子どもに対し先生が応答的にかかわる
- 人、物、環境との相互作用を奨励する

### プロジェクト・アプローチの目的

子どもの生活(「心」の生活)を陶冶する  
↓  
知識、技術、社会性、情緒、道徳性、精神性

子ども自身の経験、環境理解  
↓  
子ども自身の知的能力に対する自信の深まり

### インフォーマルで統合的環境

内発的動機づけを高める  
個々に応答できる  
相互作用を高めることができる  
↓  
知識を構成し習得  
社会的スキルを習得  
知的好奇心、社会への関心の高揚  
感情の発達の促進

### プロジェクト型保育の カリキュラム

#### エマージェント・カリキュラム

子どもの興味や好奇心を多いに反映させてつくる

(interest-based curriculum  
horizontal planningの系譜)

### 「暗記」型から「活用」型の学びへ

自分で考えること  
(知識と技術を活用して)  
↓  
自分で決めること  
↓  
自分で行動すること

### 遊びをつうじた学びのプロセス

関心を持つ 問いを立てる

単なる実践エピソード記録から脱却し  
専門職による業務記録へ

単なる実践記録  
好きな遊び(自由遊び)の列挙、事実と印象の混在

↓

専門的な実践記録  
業務記録(客観性:吟味可能、課題の抽出、今後の方針)

↓

議論が可能  
評価が可能  
専門性の向上が可能

### プロジェクト型保育の起点

子どもの

好奇心:なんだろう? おもしろそう!  
もっと関わりたい!

探究心:なんでだろう? どうしてだろう?  
もっと知りたい!

あこがれ:できるようになりたい! ○○博士になりたい!

を 子どもの現実(遊び・生活の姿)から抽出する

### トピックの選定

子どもの姿から

+

保育者のねがい  
(教育的意図、育てほしい子ども像)

保育所保育指針との関係  
5領域との関係



## 参加者アンケートより

### 1. 各園の事業報告について

- ◎各園がこの1年間取り組んでこられたあゆみがよくわかり、質の向上に向けて、すごく努力しておられる様子が感じられよかった。保育を変えるということは口で言う程容易ではないが、職員1人1人が、又園としても変えていこうという思いでやっていくことが大切なんだと思った。
- ◎日々の保育を意識して言葉、行動など個々の子どもの興味、知りたいことややってみたいことを把握して、しっかり記録することによって、ねらいに深まりと広がりができ、子どもの育ちや学びの援助ができる具体的な報告が聞けて、日々の保育の大切さを考えさせられました。
- ◎最初は手探りでスタートしたことも、各園研修助言をいかされて、いろいろ工夫されている様子がよくわかりました。  
子ども主導の保育は、時に保育士の予想外のことが起きるが、それをうまく次の保育へとつなげていく保育士の力量が必要だなとつくづく感じました。
- ◎どの園も試行錯誤しながらも、一人一人の子どもに丁寧に関わり、子ども自身からの気付きや育ちを広げようとされていると感じました。  
トピックスとして何を取り上げていくかということについては、年間を通して、子ども達に何に気づいて欲しいか、何を感ずて考えていって欲しいかということ、保育士が具体的にしっかりと持って、職員同士が共有しているという上で、行うことがよりよい対応、よい保育ができる大切なことだと思いました。  
保育の中で、子どもの気付きを流してしまわないよう柔軟な心が必要だと思いました。
- ◎各園で報告書を書いたり、発表があった事で、しっかりと1年間の学びや課題を見直せたのではないかなと思う。  
また、各園の報告書を見ていると、改めて、気付くことや、発見があり、自分の園だけでは見えていなかった部分も共有ができてよかった。
- ◎年齢に合った声かけ、興味に合わせた保育を実践すること、保護者に伝えること、どちらにも記録をうまく用い方法を工夫することの大切さを感じた。とてもわかりやすく、ききやすい報告で、自分の保育や園との比較もでき、よかった。
- ◎各園、子どもの主体的な考えや発想を生かし、工夫して保育されていると感じました。報告の中には、自分自身では気付かない、思いつかないような、子どもたちの姿、声を見取って、日々の保育を進めておられたので、とても勉強になり、参考になりました。  
各グループでの研修、取り組みがリンクし、舞鶴市全体の保育がよりよいものになっていくよう、これからもさまざまな研修や保育実践で頑張りたいです。
- ◎”保育の質の向上”というのが広く(みんなに)意識されてきているんだなということがすごく伝わってきました。エピソード記録やドキュメンテーションを書くことで、子ども達の姿(成長)が細かく見えてくるのが、改めて強く感じ、大切だなと感じました。
- ◎各コースに言えることですが、このプロジェクト型保育事業は、自分自身の保育をしっかりと振り返ることができるのだと改めて理解しました。各園の代表者の方が発表をされている内容や課題を聞き、自分ではできているだろうか、こんな考え方、声かけがあるのだと勉強になりました。明日からの保育につなげていき、子ども達が主体的に過ごせるように工夫していきたいと思いました。
- ◎どのコースにも共通していた「ねらいが大切」というのが印象的でした。  
毎日、どんな子に育てほしいか、どんなことに気付いてほしいかを考え、ねらいを立て、そのねらいに添って関わっていくことの大切さを再認識できました。  
またもう一度、発達をよく理解し、心にゆとりを持って、子どもの言葉、気付きをひろえるような保育をしていきたいと思いました。
- ◎3コースに分かれた活動が斬新でしたが、3種類の報告が1度に見ることができて、とても充実できました。  
ちょっとした意識、工夫で、結果が変わってくることをよく理解できました。どの園も”目的を持って1つの取り組みをされたことにより、”進化”が見られた”ことから、園内カンファレンスや、話し合いの大切さを知りました。
- ◎他園の記録やドキュメンテーションの説明や、それに対する各先生の助言も聞くことができ、共に学ばせてもらえた。Cコースで学ばせてもらったエピソード記録をもとにドキュメンテーションのよさをうまく活用できたらと思う。職員間のカンファレンスの必要性を痛感する。
- ◎子どもたちが興味を持ったことは、共有し、何度も楽しめるようにしたいと思ったし、興味を持っていないことも関心が持てるような声かけを心がけたいと思いました。
- ◎各園とも積極的に保育に取り組んでおられる様子がよくわかり、すばらしかったです。  
自園でも、こんな風な保育ができるように頑張りたいなあと、いう思いが湧いてきました。すばらしい実践報告ありがとうございました。
- ◎各コースの取り組みを報告して頂くことによって、どのコースにもつながっていることがよく理解できました。どのコースにも言えることとして、子どもの主体性のもと保育をしていき、またそのためには魅力ある環境設定していく必要があること、子どもへの関わり方の重要性などがあることを課題とし、これからの保育にしっかりと取り入れていき、また保育の振り返りを進めていきたいと思います。
- ◎プロジェクト保育というものが、今一つ理解できておらず、今後どうやって行くのだろうかと思っていたが、ルンビニ保育園の報告でプロジェクト保育のあり方がよくわかった。  
一つのトピックから次々に新たなトピックが生まれ、一年を通しての子どもの成長を、よその保育所でありながらも感じ取ることができ、感動すら感じる事ができた。子ども達からうまれた疑問、探究心を受け止め、流れのある保育をすることが楽しい日々になることだと思ったが、そうするにはしっかりとねらい、願いを持つことが必要だともよくわかった。
- ◎現在、乳児(1歳児)の担任をしている中で南乳児の発表内容は勉強になりました。実際に子どもと関わる中で、発達に合っていた事がとらえられていたのか、できたことに喜びすぎ、過信しすぎていなかったか、もう一度発達の基本を確認、見直そうと思った。
- ◎各園、各コースの取り組みの報告を聞き、子どもの様子、言葉や行動など、自分のものだけにせず、職員間でも話し合うことで、よりよい保育ができるのだと感じた。他のコースの報告発表も興味を持てた。  
自園のコースではなくても、そのような取り組みをすることで、さらに保育内容の向上につながると思う。
- ◎他のグループの様子、また他園の活動などを知る機会はないので、とてもよい機会になり、興味をもって聞かせていただきました。各園の事業報告を聞き、子どもの姿や会話を記録していくことの大切さを改めて感じました。
- ◎保育のあり方の変革のきっかけとなって行っているプロジェクト型保育の学習の場であったと各園の報告を受け、改めて感じた。  
自園も取り組みをスタートしたが、とまどいが多かった。  
新しい事を始めるエネルギーをしぼり出す大変さも感じつつ、子ども達の成長・発達にどんなサポートがよりよいのか、各コースの報告を聞きながら、改めて自身の考え方、関わり方など、意識を持って保育に関わりたかったと思った。  
ただ各園の報告を聞く中で、各園1つのコースというのも少し考えさせられた。どのコースにもつながっていることが多く、さまざまな角度から視野を広げる機会ももっとあったらよかったと思う面もあった。
- ◎どの保育園も、子ども主体の保育の大切さに気付いたということで、まだ始めたばかりなのですが、それぞれコースはちがっても、結果的に子ども主体というのは大切なことなのだとこのことを改めて感じました。  
子どもの姿、ことばをひろい、それを保育にいかせるようにしていきたいと思った。
- ◎それぞれの園の方々が一年間取り組んでこられた総まとめを見せて頂き、とても勉強になり、自園の発展へも役立てたいと強く思った。またこのような機会があれば、ぜひ自園でもモデルとしていきたい。

◎自分のコース以外の園の取り組みがよくわかり、とても勉強になりました。

こんな風に発展していけるんだと気づけたり、まだ型にはまっているなど自分自身を省みたりすることができました。

課題を次に生かせるようにもっと勉強していきたいです。

◎各園、各コースの報告を聞かせて頂き、どのコースにも共通するキーワードがいくつもできていたように思いました。

自分自身が、また職員間でどのようなねらいをもち、願いをもち、子どもに関わったり、保育していくかということを共有したり、深めていくことが大切だと改めて感じました。(反省点として・・・)“今日はこれがしたい”という思いが先行しすぎて、集める保育になっってしまったのではないかと反省しました。

子どもが興味をもって集まってきてくれるような導入やきっかけづくりを心がけたり、子どもの言葉を丁寧に拾っていききたいと思いました。

◎各園、コース毎に学ばれたことが、よくわかり、どれも素晴らしい内容だった。

主体性も発達も、大切さは頭の中で理解されていても、保育の中では、そのようになっていなかったことを感じ、それをプロジェクト型保育として、具体的に指導してもらい、実践することで、参加園は大きく成長することができ、とてもありがたかった。

◎ねらいを意識することで関わり方がかわる。発達をとらえた保育士の意図、願い、の重要性。集める保育から集まる保育、などたくさん学びのキーワードがありました。

とても充実した内容の報告で、改めて、この一年がすばらしい事業だったことを実感しました。自分達の保育所のできることを少しずつ、子どもと一緒に楽しんでいきたいと思える研修でした。

◎どの園も春から比べると、ドキュメンテーションの仕方、保育の内容が、よく勉強されていて、聞いていてもよくわかり、とても興味深いものでした。

子ども主体の保育の大切さや、子どもからの声や姿を発達をとらえて、それをしっかり保育士が理解し、ねらいや意図をもって保育していくことの大切さを教えてもらいました。

この1年間の学びを大切に、これからも保育所全体で研修にはげみ、がんばっていききたいです。発表された保育園、先生方、本当にお疲れ様でした。これからも一緒にがんばっていきましょう。

◎ドキュメントを通じて、子ども、保護者、保育士が同じ情報を共有できるようになり、コミュニケーションがとりやすくなったように思う。ドキュメント(掲示板)の前で足を止めている姿をよく見かけられるようになり、保護者から保育についての質問も増えたと実感している。

◎どの園もこの1年で大きく変わったことがよくわかった。また、1人1人保育士の意識が変わったように思う。

◎他コースがどんな勉強をしていたのかわかったし、自分の保育にいかしていきたい。“集める保育と集まる保育”心にとめておきたい。

◎どの園も保育のエピソードが含まれていて、とてもわかりやすい内容だった。他コースの事業内容をあまり理解できていなかったが、報告を受けて知ることができた。どのコースもねらいや発達の確認、主体性の大切さ、可視化の必要性など、共通していることは一緒だなと感じた。“集める保育と集まる保育”はとても心にひびいた。

◎子ども主体の保育の中での保育士の関わり。どんな子どもに育ててほしいかという、思いのもと、ねらいをもって保育し、子どもの姿を記録し、振り返ることで、今の子どもの姿に気付く。そして、子どもたちの育ちをより広げるための環境設定、保育士の関わり、を意識して行うこと。実践ではとてもまだ不十分ではありますが、子どもの主体性を引き出すことのできる保育士になるために、まず子どもの姿や自分の関わりについて、考察すること、保護者に育った力を伝えること、をしっかりとしていきたいと思えます。

◎各コースの事業報告を聞いて、まず自分の園のコースについて、より一層学びがあったように思えます。子どもと進める、子ども主体の保育の大切さ、そして、それを保護者へ伝える保育の可視化の重要性を改めて感じました。そして、それは、どのコースについても同じで、「子ども主体の保育」は、これから保育を行っていく上で、最も、大切にしていかなければならないのだと思い、もっと勉強しなくてはいけない、と思いました。

◎とても勉強になりました。他のグループのお話もきけて、自分の保育を見直したり、私もやってみよう次への目標にしたり、今まで自分のしたこと→子どもの様子、反省→自己反省を一生懸命してきたところで、他の園や他の先生のお話を1年の区切りで、きくことができ、自分と重ね合わせたり、同じようなことがあったなあ、自分だったらこうしたかな、と振り返ることができました。

そのことによって来年度はもっとこうしてみたいのかかもしれないと自分の経験+今日見た実践から次々とうかんできて、私自身がもっともっと成長していきたいと思いました。



## 2. 講師の講評及び講演について

◎子ども達のあそびの中の学びを保育者が自覚していくこと、子どもが発信したものをひろいあげ、発達を理解した上であそびを広げていったり、教材を与えていく事等、前半の事例報告を受けての講演だったこともあり、より理解できたように思います。

◎北野先生の話は、いつ聞いても本当に元気ができます。子ども自身が“やろう”とやってる時の方が、いろんな能力が身につけていくこと、子ども主体で活動していくことが興味の面でも発達の面でも有効なのがよくわかった。

プロジェクト型保育については、まだまだ学びはじめたばかりで、なかなか実践がともなわず、もがいている状態ですが、話をきくたびに、よし、やるぞ!と思います。

今後ともがきながら頑張っていきたいと思えます。

◎「無自覚の学びの中の学びを保育者が自覚する」子どもの興味・関心、好奇心をおおいに保育に反映。どんどん創造的にかえていく。保育士の役割!! 専門性 気がひきまると同時にワクワクします。記録、ふりかえりをしっかりとしていきたいです。

◎保育士に必要な力・陶冶(とうや:生きる力を育てること)、インフォーマルで統合的環境など興味を持ちました。

”子どもたち自身に気付かせる・待つ”ということは、限られた時間の中で保育をする上で難しいように感じるが、その時間も想定して、ゆとりを持ち保育したいと思った。

学ぶ力(自ら)・楽しむ力を育てるような保育をしたいと思えます。そのためにもっと勉強し、意識(ねらいや年齢に合った環境など)できるようにしたいと思えます。

◎昨日の公開保育からの講演だったので、自分の中でつながることがあり、子どもにどんな力をつけ、どんなことを学んでほしいか、子どもの姿(興味、関心)から引き出していけるような保育をしていきたいです。

◎記録をつける大切さ、振り返り、省察する大切さなど詳しく知ることができた。

結果でなく、プロセスを大切にし、保育して、ドキュメンテーションを通して保護者へ伝えていく力を身につけていきたい。

◎私自身、自信を持って保育しているかという・・・。自信のないことが多かった!多くの研修を受けることも大切だけど、保育士間との学習、話し合いの大切さを感じた。

◎主体的保育の中には、保育士の主体性も環境の中にあるのだと思いました。

◎エマーゼントカリキュラムのところをお聞きして、日々の保育で子どもの興味や関心、好奇心を反映させていけているだろうかと自分に問いかけました。子ども達が主体的に自由にしたいことを表現できる環境作りが大切だと思いました。

先生のお話を聞いて元気を頂きました。



保育士としてほこりを持って、これからも頑張ります。ありがとうございました。

- ◎この仕事をよく理解していただいていることがわかり、嬉しかったです。次は(？いつか?)海の向こうの”園”の様子や現状も是非知りたいと思いました。  
また来て下さい!!
- ◎保育士という専門職の向上、園にもち帰り、全職員にしっかり通達したい。  
私たちの園は子どもの自主性を大事にしている。しかし、保育士として常にねらいを頭におき保育できているか、記録、ドキュメンテーション、そしてそれをもとにカンファレンスの大切さ、行動に移していきたいと思えます。今後ひきつづき他園との関わりのもてる事業をお願いします。
- ◎日々保育の中で、つい「○○しなさい!」「次は○○!」と声をかけてしまっているなと思いつつ、お話を聞かせて頂きました。  
確かに自分で考え、行動する力、自分達で問題を解決する力があまりついておらず、遊びこめない子ども多数いることが思いました。子どもが自分で考え、行動できるよう、誘い語、疑問語を心がけたいと思えました。  
また、改めて、大人の関わり方、環境の大切を感じさせられました。
- ◎どの時期にどの援助など保育士が自覚しないといけないということ、遊びの中の学びを保育士が自覚することなど、自分の保育を見直す機会になりました。
- ◎改めて書くこと、記録することの大切さを知ることができました。非常勤でクラスをもっていないフリーということもあり、担任の先生にも甘えた形の保育でしかなかったと思えます。振り返る、考える、次の保育につなげていくということを常に頭において、保育しようと思えました。
- ◎専門職として自覚を持って保育を進めてきたつもりではありましたが、ドキュメンテーション作成することによって、より可視化をし、私達がしていた保育の振り返りができたように思う。子どもひとりひとりのつづやきを大事に今、何に興味・関心を持っているのか、また、年齢の発達をしっかりとらえ保育を進めていきたいです。1年間を通して、いろいろな学びがあり、これをさらに改善し取り組んでいきたいと思えます。
- ◎幼児の学びは小・中・高のように教科書もなく一斉に学ぶものではないので、生活や日常の遊びの中で1人ずつ学んでいくという事を改めて理解した。また、子どもが自分で考えて、遊びにつなげていけるよう、保育者の中では、ある程度のねらい、援助、環境設定をしていくことの大切さを知った。  
自分の保育の中でも実践していきたい。
- ◎今年1年、プロジェクト保育を学ばせていただき「子ども主体の保育」の大切さを感じましたが、今日の北野先生のお話を聞いて子どもが自分で考え、決めて行動できる、そんな保育ができるようになっていきたいと思えました。

(木下教授の)「集める保育」と「集まる保育」というお話がありましたが、私自身の保育を考えると”集める保育”で指示が多く、自分の思いが前面に出てしまっていることを改めて感じました。

今日のお話を聞いて、子どもの思いを大切に、そして子ども中心の保育を心がけたいと思えました。ありがとうございました。

- ◎実践と研修が大切。又、振り返り、学びの継続が重要。プロジェクトをする中で気づき、発見が多く、自分の保育の振り返りにも大きく影響した。  
・子どもが興味、関心をもつような声かけ。(ほつたらかしては×)  
・一人一人の子どもたちに対して保育士が客観的に答える。  
ゆつたりと一人一人聞けていないことに反省する。又、興味、関心がもてるような声かけを心がけ、子どもが興味をもったことなどを大切に自発的に進められるような保育をしていきたいと思えました。
- ◎日々の活動の中でドキュメンテーションとして保護者にお伝えしていく時に、保育士の意図やねらいが子ども達の発達の道筋に沿ってあることを、明確に具体的に知らせていくことをあらためて感じました。
- ◎型にはまらず、個々の子どもの気づきや好奇心を見つけてひろいあげ、その気持ちを広げてつなげられる保育士でありたいと思わせてもらえる講演でした。”自分で考える”ことを大切にしながら待つ環境を工夫すること、それを保育士全体で共通認識して、自主的行動を育てていける空間作りをしていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ◎日々の保育の中で、子どもの活動を保護者に伝えられていない現状であったが、さまざまな方法により保護者に伝えられるようになり、保育内容がより一層わかるようになり、保護者からも非常によかったという声を頂けた。まだまだ勉強途中であるが充実した1年であったと思う。
- ◎毎日の保育の中で、ねらいを設定するが、製作の時には、できばえを中心に覚えてしま、ねらいについての達成度をあまり見ることができてなかったと実感しました。また、年齢の発達を理解しきれておらず行っていた部分もあり、改めて理解していこうと思、意識していきたいと思った。
- ◎先生の話聞き、改めて自分の保育を振り返り、たくさん課題がみられた。  
子ども達が楽しかった、もっとしたい、そう思えるような保育を心がけていきたいです。
- ◎子どもとふれあう専門職としての保育士、これからはもっと研修などで勉強していく大切さを感じました。  
ドキュメンテーションを作成するにあたり、保育の振り返りの大切さ、実践をやりっぱなしにしないこと、子どもの育ちがあつたかなど、いろいろ考え、体験していくことなど、いろんなことを学ばせて頂きました。

向上心もち、保育をすすめていきたいと思えました。

- ◎とてもわかりやすく、まだまだ自分は1人1人の子どものことを細かく見れていないなと思えました。まずは自分の中の「こうでなければ」という考えをもっとやわらかくしないといけないと思えました。子ども達のように自由な発想を忘れていたなと気づきました。もう少し肩の力を抜いて見ることも大事だと改めて思いました。ありがとうございました。
- ◎今まで自分が書いた記録を読み返す機会や、他の先生のものを見て頂くこともあまりなかったけど、振り返り「この時こんな言葉がけできたかも」「こんな言い方はよくなかった」「こういう見方もあるのか」「すごい、こんな言葉がけしたい」とそこからの学びも大切にしたい。  
ドキュメンテーションもまだまだ勉強中で課題も多いけれど、「気づき」「驚き」「発達」「おもしろエピソード」など、保護者の方にも発信していきたい。
- ◎記録をしっかりPDCAサイクルにいかせるものになりたいと感じた。  
遊びが盛り上がらなかった理由を気づかされました。以前は子どものあそびが盛り上がったと思ったら、続かない・・・ということが多く、“なんでだろう”と思うことがありましたが、その時は”子ども主体”ということだけを意識し、保育士の関わりが見守りでしかなかったのだと改めて気づくことができました。  
プロジェクト型保育を進める中で、子ども達の力や発見があふれた保育が楽しく、“子どもの気づきをもっとしたい””もっと子どもたちが盛り上がるには”と考えるようになりました。そのことを北野先生のお話をきいた際に、保育士の専門性として意識し、取り組むように考えるようになっていきました。子どもの興味・関心を深めていけるように、子どもの発想を保育に取り入れ、子どもとつくる保育ができるような力量をつけていきたいと思えます。
- ◎保育士は、子どもの声に耳を傾け、興味、関心をもった時に、沢山深めていけるような教材、コーナー(環境設定)を工夫するとともに、子ども自身も、自分で自分を育てられる力が身につけられるよう、自分で考え、決め、行動できるような学びの場も考えながら、保育にあたっていきたく思いました。  
公開保育、講演共に新たな気づき、学びとなり、自身を振り返る機会となり、とてもよかったです。ありがとうございました。
- ◎1年頑張ってきて改めて先生のお話をきくと、前見えていなかった気づきや課題が具体的にうかがう自分に成長を感じ、これからはもっと工夫し、保育を頑張っていかなければと思えました。前はついていけなくて悩むことが多かったのですが、方向性を感じてみたり、1年間を通しての子どもの変化を感じて、私自身の見通しの実感も得られ、私もやっとこのプロジェクト型保育のスタートラインに立てたんだと思っています。これからはさらに成長していきたいと思えます。